

# 「考え、議論する道徳」の授業づくり (小学校段階)

「考え、議論する道徳」の授業づくり  
(小学校段階)

平成31年3月  
栃木県総合教育センター

平成31(2019)年3月  
栃木県総合教育センター

## はじめに

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく急速に変化し、予測困難な時代を迎えています。

このような時代において、社会を構成する主体である一人一人が、高い倫理観をもち、人間としての生き方や社会の在り方について自ら考えることが一層大切になっています。同時に、多様な価値観の存在を認識しつつ、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を模索し続けるために必要な資質・能力を身に付けていくことが求められており、道徳教育はこれまで以上に重要な役割を果たすことが期待されています。

これまでも「道徳の時間」は、学校における道徳教育の「要」としての役割を果たしてきました。各学校では、学校や児童生徒の実態等に基づき、創意工夫のある優れた実践も行われてきました。しかしその一方では、「読み物の登場人物の心情理解に偏った授業」や「決まりきった答えを言わせたり書かせたりする授業」などが多く見られるという課題も指摘されてきました。

こうした中、平成27年3月に小学校及び中学校の学習指導要領等が改正され、「道徳の時間」は新たに「特別の教科 道徳」と位置付けられました。子どもが主体的に道徳性を養っていくために、これからの道徳科の授業では、子どもの実態に合った学習指導過程や学習方法を工夫改善しながら「考え、議論する道徳」の授業へと質的転換を図っていくことが求められています。

本調査研究では、「問題意識をもつ」「自分との関わりで考える」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」の四つの学習活動について指導の工夫改善を行うことで、「考え、議論する道徳」の授業への質的転換を図ることができるのではないかと考えました。それらの工夫改善について調査研究協力校と共に授業づくりを行い、実践事例をまとめました。各校での道徳科の授業づくりの一助となるように、本冊子をぜひ御活用下さい。

最後になりますが、本冊子の作成に当たり、御協力いただきました関係市町教育委員会及び調査研究協力校の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成31（2019）年3月

栃木県総合教育センター所長  
大森 亮一

# 目 次

はじめに

## 第1章 「考え、議論する道徳」とは

1 「考え、議論する道徳」の授業で目指すこと	2
2 「考え、議論する道徳」の授業づくりに向けて	4
コラム 道徳的諸価値について	14
コラム 発問と発問の構成について	15

## 第2章 四つの学習活動の指導について工夫改善した実践事例

### 学習活動① 問題意識をもつ

B－(9)：友情，信頼「絵はがきと切手」(第4学年)	18
----------------------------	----

### 学習活動② 自分との関わりで考える

A－(1)：善悪の判断，自律，自由と責任「ぼんたとかんた」(第1学年)	22
A－(1)：善悪の判断，自律，自由と責任「二つの声」(第3学年)	26

### 学習活動③ 多面的・多角的に考える

B－(9)：友情，信頼「およげない りすさん」(第1学年)	30
B－(10)：友情，信頼「ミレーとルソー」(第5学年)	34

### 学習活動④ 自己の生き方について考えを深める

B－(11)：相互理解，寛容「名医、順庵」(第5学年)	38
-----------------------------	----

参考文献	42
------	----

# 第1章

## 「考え、議論する道徳」とは

「考え、議論する道徳」の授業への質的転換が求められている背景や、「考え、議論する道徳」の授業の実現を目指して、「問題意識をもつ」「自分との関わりで考える」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」の四つの学習活動について、指導をどのように工夫改善するとよいか説明しています。



「考え、議論する道德」の授業って、どういう授業のことなんだろう？

「考え、議論する道德」の授業とは、答えが一つではない道德的な課題について、発達の段階に応じて、一人一人の子どもが自分自身の問題と捉え、向き合っていけるような授業のことです。



なぜ「考え、議論する道德」の授業が求められているのかな？

これから子どもたちが生きていく時代は、決まった正解のない予測困難な時代になるでしょう。その中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きていくことが一層大切になってきます。その基盤となる道德性を養うことが求められているからです。



「考え、議論する道德」の「考える」、「議論する」ってどういうことだろう？

この場合の、「考える」とは、子どもが主体的に自分との関わりから、ねらいとする道德的価値について、自分の感じ方や考え方を明確にすることです。

「議論する」とは、子どもが多面的・多角的に考えて、多様な考え方や感じ方と出合い交流することです。そうすることで、自分の考え方や感じ方をより明確にすることができます。





どうすれば「考え、議論する道徳」の授業が実現できるのだろうか？

「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という。）の目標を見てみましょう。ここに、道徳科が目指す学習活動が示されています。



### 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、<sup>①</sup>自己を見つめ、<sup>②</sup>物事を多面的・多角的に考え、<sup>③</sup>自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』より

※①、②、③と下線は加筆した。

### 道徳科が目指す学習活動

道徳的諸価値についての理解を基に

- ①自己を見つめ
- ②物事を多面的・多角的に考え
- ③自己の生き方についての考えを深める

学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



なるほど！学習活動に着目して、学習指導過程や指導方法を工夫した授業づくりを行うことで、「考え、議論する道徳」の授業への質的転換を目指すことができるんですね。

### ここがポイント

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、「考え、議論する道徳」の授業への質的転換を図ることが求められています。

平成 28 年 12 月に中央教育審議会が示した「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」に、「道徳教育においては、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考え、議論する道徳』を実現することが、『主体的・対話的で深い学び』を実現することになると考えられる。」と書かれています。

当センターでは、道徳科の目標と「主体的・対話的で深い学び」の視点を基に、「問題意識をもつ」「自分との関わりで考える」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」の四つの学習活動に着目し、これらを授業の中に設定して指導を工夫改善することにより、「考え、議論する道徳」の授業への質的転換を図ることができると考えました。

### 着目した四つの学習活動に関する指導

#### ①「問題意識をもつ」

導入において、主体的な学びの実現のためにも主題や教材の内容に興味や関心だけでなく、本時の主題に対する問題意識をもたせて授業を展開できるようにする。

#### ②「自分との関わりで考える」

主題に対する問題を自分との関わりとして、これまでの自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、深く考えることができるようにする。

#### ③「多面的・多角的に考える」

道徳的価値の意義及びその大切さについて、他者と対話したり協働したりする活動を通して、多様な考え方や感じ方に接し、自分の考えを深め、判断し、表現できるようにする。

※「多面的・多角的に考える」とは、例えば、読み物教材に登場する様々な人物の立場で考えてみたり、登場人物を客観的に捉えて考えてみたりするなど、様々な面をもつ学習対象を、様々な角度から考えることです。多様な感じ方や考え方に接する中で、価値理解だけでなく、人間理解や他者理解も深めるなど、道徳的価値の理解につながります。

#### ④「自己の生き方について考えを深める」

道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、他者の多様な感じ方や考え方に触れることで、自分の特徴を知ったり、伸ばしたい自分を見つめたりできるようにする。また、これからの生き方の課題を捉え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

・浅見 哲也「道徳科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」『初等教育資料 平成 29 年 12 月』を参考に作成しました。





## ①問題意識をもつ

子どもに問題意識をもたせるために、例えば、授業の導入で、主題や教材の内容に対して興味や関心を高めたり、道徳的価値の理解を基に自己を見つめられるように動機付けしたりすることが考えられます。

具体的な手立てとして、子どもの生活や経験などの実態に合わせ、本時で扱う道徳的価値と関連がある身近な問題や社会問題、教材に描かれている問題、学習課題などを導入段階で話題にすることで、子どもが問題意識をもち主体的に取り組めるように工夫することなどが考えられます。

## 具体的な手立ての工夫の例

### アンケートの活用

○ねらいとする道徳的価値に関わる生活経験に関するアンケートを事前に行い、集計して分かりやすく提示し、問題意識をもてるようにする。

「友達が規則を守れなかったときどうしますか?」と聞いたアンケートの結果です。「注意する」が一番多いけれど、もし、仲のよい友達が廊下を走っていたら、みんなは注意できるかな?

アンケート結果	
①注意する	15人
②何もしない	5人
③先生に言う	1人
④その他	3人

規則が守れていなかったら注意しないといけないのは分かるけれど…。でも、実際に仲のよい友達には、注意できないかもしれないな…。

ねらいとする道徳的価値  
B 友情, 信頼

### 生活経験の発表や話し合いの場の設定

○ねらいとする道徳的価値に関わる生活経験の発表、話し合いなどを設定し、子どもが考えてみたい、話し合ってみてみたいと思えるように発問を工夫し、問題意識をもてるようにする。

教科書等の教材との出会いから、その中に描かれている問題を捉えさせる工夫

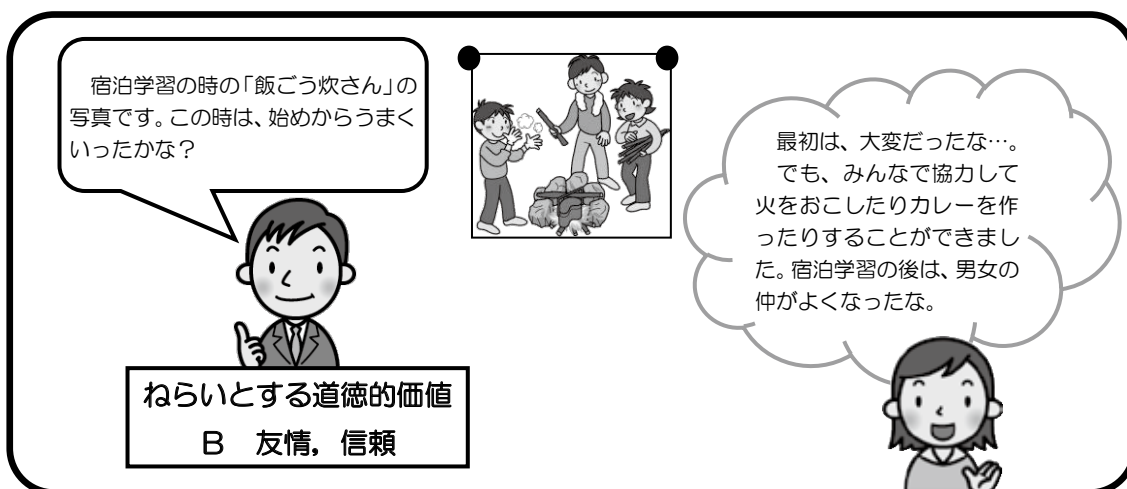
○教材の中でねらいとする道徳的価値に関わる問題について考えてみたい、話し合ってみてみたいという意識をもてるように問いかけをする。

導入における発問の工夫

○子どもが、身近な生活の中の問題や社会的問題等を投げかける際に、話し合いたくなるように発問を工夫することで、問題意識をもてるようにする。  
「あいさつは大切であると分かっているが、なぜできないのか」  
「いじめはよくないと分かっているが、どうしてなくなるのか」  
「『広い心』とは、どういうことか」 など



ねらいとする道徳的価値が含まれる写真などの提示



## ②自分との関わりで考える

自分との関わりで考えることができるようにするために、子どもがこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせ、さらに考えを深めることで、授業で学んだことが今後の生き方に生かされるようになると考えられます。

具体的な手立てとして、子どもの日常生活の経験や共通体験を想起させたり、子どもの実態を把握し意図的指名をしたり、子ども自身の体験から表現できる発問を工夫したりすることが考えられます。

### 具体的な手立ての工夫の例

#### アンケートの活用

○ねらいとする道徳的価値に関わる生活経験に関するアンケートを事前に行い、集計して分かりやすく提示する。その結果をもとに問題に対して自分との関わりについて考えることができるようにする。

「友達が規則を守れなかったときどうしますか？」と聞いたアンケートでは「注意する」が一番多いですね。  
では、実際に似たような場面に出会った時のことを、振り返ってみましょう。本当に注意できましたか？

アンケート結果

① 注意する	15人
② 何もしない	5人
③ 先生に言う	1人
④ その他	3人

清掃の時間に、遊んでいる友人がいたけれど、注意できなかったな。

ねらいとする道徳的価値  
B 友情, 信頼

#### 直接体験や間接経験を出し合う場の設定

○ねらいとする道徳的価値に関わる直接体験や間接経験を話題にし、自分との関わりで振り返らせ、そこからの問題について考えることができるようにする。

#### ペープサート・紙芝居・場面絵などの活用

○資料によっては、登場人物が複数人登場したり、登場人物同士の関係性が複雑だったりして、子どもが教材の内容を理解しにくい場合がある。自分事として捉え、より深く理解できるようにするために、ペープサートや紙芝居、場面絵の活用をする。同様にICTの活用も考えられる。



### 場面に応じた発問の工夫

- ねらいとする価値そのものを問う。  
「本当の△△△とはどんなものか。」
- 登場人物などの心情を共感的に問う。  
「~のとき□□□の心の中はどんなだったか。」
- 具体的な問題場面において、※投影的に問う。 ※登場人物に自分を置き換えて問うこと。  
「もし、□□□だったらどうするか。」

### 役割演技等を取り入れる工夫

- 役割演技とは、資料の中の特定の場面や状況における登場人物を即興的に演じることであり、演じることで実際の問題場面を実感を持って理解することにより、子どもが自分との関わりで道徳的価値について考えられるようにする。

ねらいとする道徳的価値  
B 友情, 信頼

「OOO」

役割演技

おさるさんを演じてみて、どんなことを思いましたか？

おさるさんになって「OOO」と言った後、気持ちがすっきりしました。

見ていた人はどうですか。どんなことを思いましたか？

おさるさんは、お友達に「OOO」と言えて、すごいなと思いました。自分ならなかなか言えなかったと思います。

### 意図的に指名をして自分との関わりについて考えさせる工夫

- 意図的に指名をして、子どもから感じたことや考えたことを引き出し、広げたりつなげたりすることを通して、本時のねらいとする道徳的価値についての子どもの実態を把握したり、日常生活の中で経験したことや、学校での共通体験等で感じたことや考えたことを子どもたちに想起させたりできるようにする。

どのように関わり合える人が、本当の友達だと思いますか？

かずのりさんみたいに、何でも相談にのってくれる人かな。

みちおさん

ねらいとする道徳的価値  
B 友情, 信頼

先日、みちおさんが、かずのりさんに悩み事を相談してよかったと言っていたな。他の子どもたちにも、こういう関わり方があることに気付かせたいな。

### ③多面的・多角的に考える

多面的・多角的に考えることができるようにするためには、特に、対話的な学びを工夫することが大切です。例えば、ペアや小グループでの話し合い活動を取り入れ、交流することを通して子ども同士の対話を促すことが考えられます。また、教師との対話はもちろん、保護者や地域住民、専門家等の授業への参加を得るなど、教師以外の大人との対話ができるようにすることなどが考えられます。

具体的な手立てとして、他者と対話をしたくなるような工夫が大切です。そのためには、様々な視点に気付けるような発問や表現方法の工夫、ペアやグループなど対話する相手の設定の工夫が考えられます。また、子どもの考えを比べたりつなげたりしながら、その関係性を明らかにできるように板書を構造的に整理することも考えられます。

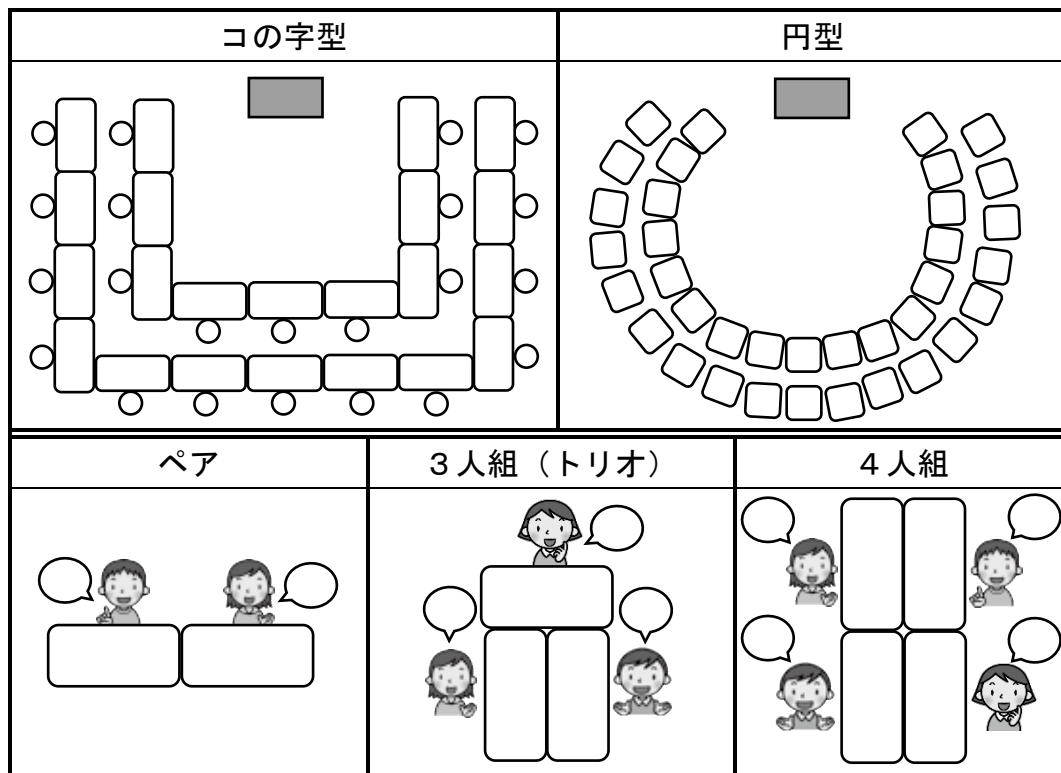
対話を通して多様な意見を受け止めたり、お互いの意見を認め合ったりできるようにするためにも、学業指導（※）を通しての学級づくりが大切です。

※学業指導… 「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の二つの側面があります。詳しくは、『学業指導の充実に向けて』（栃木県教育委員会 平成24年3月）や『学業指導の充実』（栃木県総合教育センター 平成26年3月）等を御覧ください。

### 具体的な手立ての工夫の例

#### 学習形態の工夫

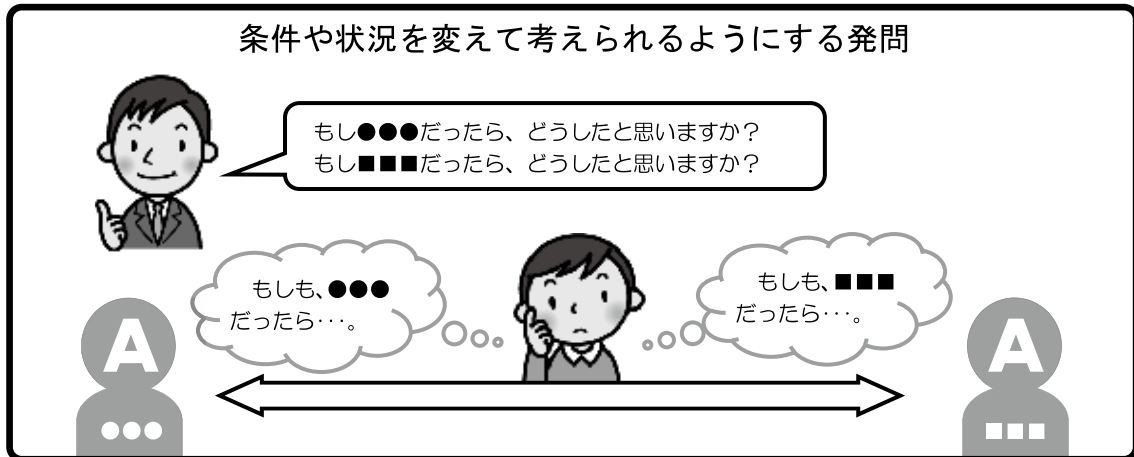
- 教師の意図や学習場面に応じて一斉型の学習だけでなく、他者と対話や話し合いがしやすくなるように様々な学習形態を設定する。



### 発問の工夫

○ねらいとする道徳的価値に直接結び付く中心発問では、多面的・多角的に考えられるような発問として、次のようなものが考えられる。

#### 発問例



### 問い返しの工夫

○考えの根拠を確かめる問い返しをして、答えは同じでもその根底にある考え方や感じ方は様々であることに気付かせるようにする。

「なぜ、そう考えたの？」

(いくつかの考えを整理して)「どの考えが大切だと思いますか？」など。

○考えが広がらなかつたり表面的だつたりした場合には、機転を促す問い返しをする。

「本当にそうなの？」

「～という考え方もあるがどうでしょうか？」など。

### 板書構成の工夫

○複数の登場人物の立場から考えた意見を視覚的に比較できるように示す。

○時系列で登場人物などの気持ちの変化などを示す。

### 役割演技等を取り入れる工夫

○葛藤や衝突が生じる場面において、役割演技などを通して気付いた感じ方の違いなどについて話し合うことにより、異なる考えに接し、多面的・多角的に考え、話し合えるようにする。

### 意思表示のカードや教具などの工夫

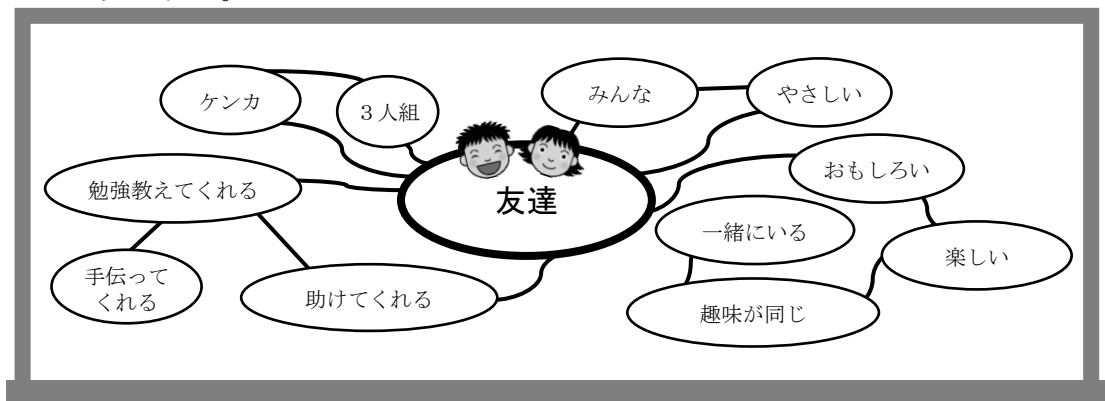
○対話する際に、登場人物や状況など、どのような立場から考えたのかを相手に分かるようにするために、意思表示のカードや教具を活用する。

### 付箋や思考ツールの活用

○考えたことや感じたことなどを付箋に書き、貼ったり剥がしたりしながら話し合い、様々な考え方や感じ方を整理できるようにする。

○ウェビング法（連想を広げていく手法。一つのキーワードから思い付く言葉を書き出し、次々とつなげ、思考を広げる方法）などを用いて、様々な考え方や感じ方を視覚化し、それぞれをつなげたり、比べたりできるようにする。

例



## ④自己の生き方について考えを深める

自己の生き方について考えを深めることができるようにするためには、子どもが道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めたり、他者の多様な感じ方や考え方に触れ、身近な集団の中での自分の特徴に気付いたりするなどの学習活動の工夫を通して、自分と向き合い真剣に考えられるようにしていくことが考えられます。

具体的な手立てとして、子どもが、これまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもったりできるような時間を確保し、書く活動などを取り入れ、記録を集積することなどが考えられます。また、学習の過程や成果などの記録（ポートフォリオ）を計画的にファイル等を集積することにより、子どもが学習状況を自ら把握し振り返ることができるように工夫することなどが考えられます。

### 具体的な手立ての工夫の例

#### 発問の工夫

最初に質問したことをもう一度質問します。  
「本当の友達」とは、どのような人のことだと思いますか？

ねらいとする道徳的価値  
B 友情, 信頼

今まで、楽しく遊べる人が本当の友達だと思っていたけれど、相手のいいところを見つけたり、お互いに信頼し合えたりできるような人が、本当の友達なのかな…。

#### 振り返りの時間の確保

- 十分な時間を確保し、ワークシートなどに書く活動を取り入れ、これまでの自分やこれからの自分の生き方などについて書きながら内省できるようにする。

#### 教師の説話

- 道徳的価値に関連した、教師自身が体験した話や偉人の名言、ことわざ、詩、写真、記事（新聞やテレビ、インターネット）などを紹介する。その際、教師の道徳的価値の押し付けにならないように注意する。

#### 保護者やゲストティーチャーの協力

- 道徳的価値に関わるエピソードを、様々な立場から紹介してもらえように設定する。

#### 音楽や映像の活用

- これまでの自分やこれからの自分について内省できるように、道徳的価値に関連した音楽や映像を活用する。

















# コラム

## ● 道徳的諸価値について

道徳的価値とは、「よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの」です。

子どもが今後、様々な問題場面に出合った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行えるようにするためには、教師は道徳的価値について理解しておく必要があります。

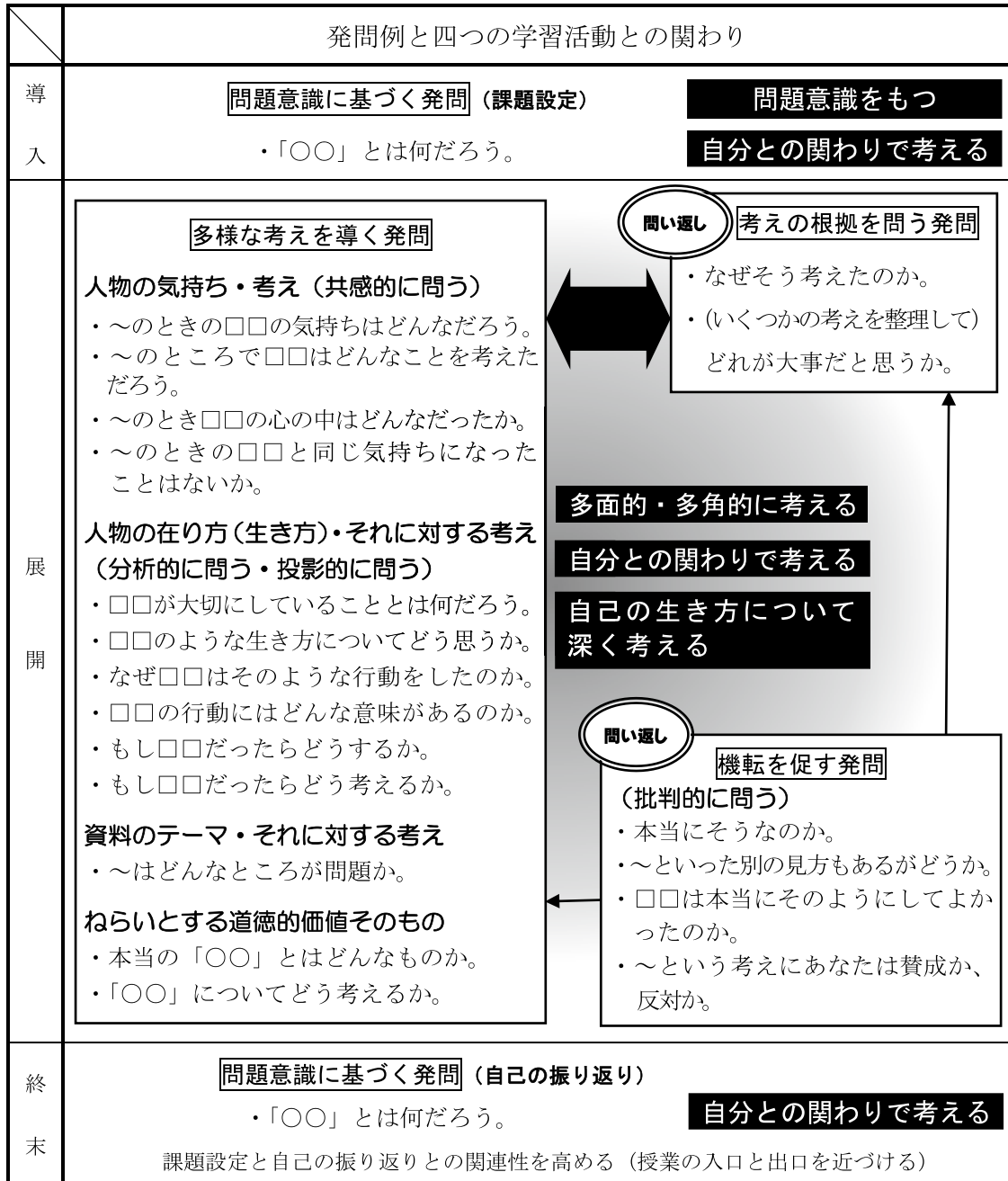
<b>価値理解</b>	人間としてよりよく生きる上で大切なことであることを理解すること
<p>理解したと思われる反応の例 (B 友情, 信頼)</p> <p> 「友達同士で協力して助け合うことは大事なことなんだ。」</p> <p> 「お互いに認め合いながら、高め合える関係にしていくことは大切なのね。」</p>	
<b>人間理解</b>	道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解すること
<p>理解したと思われる反応の例 (B 友情, 信頼)</p> <p> 「友達と仲良くしたいけれど、意見が合わなくてケンカしてしまうこともあるな。」</p> <p> 「友達とケンカをしたときに、本当は謝りたいけれど、なかなか謝ることができないのよね。」</p>	
<b>他者理解</b>	道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること
<p>理解したと思われる反応の例 (B 友情, 信頼)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p> 「みんな考え方が違うね。」</p> <p> 「そういう考え方もあるのか。」</p> <p> 「その考え方も分かるな。」</p> <p> 「いろいろな考え方があるんだね。」</p> </div> <div style="flex: 1; border: 1px solid black; padding: 10px; margin-left: 20px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>友達にウソについてはいけないと思うよ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>場合によっては、ウソをついてもいいと思うな。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>いいウソは、ついていいと思うよ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>分からない…。この場合はいいと思うけど、やっぱりウソはダメかな…。</p> </div> </div> </div> </div>	



### 発問と発問の構成について

教師は、学習指導過程の中で、子どもが自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたり、話し合いを深めたりすることができるようにします。そのためには明確な意図や目的をもって、どのような場面でどのような発問や問い返しをするかを考えることが大切です。ここでは、発問の構成例を紹介します。

#### ●発問の構成例



発問の構成例作成に当たり、宇都宮大学大学院教育学研究科 和井内 良樹 准教授の以下の著書を参考にしました。  
 ・「特別の教科 道徳」『授業が変わる！新学習指導要領ハンドブック中学校社会編』（平成 29 年）時事通信社  
 ・「『特別の教科 道徳』について考える」『下野教育 No. 759』（平成 30 年）栃木県連合教育会



## 第2章

# 四つの学習活動の指導について 工夫改善した実践事例

「問題意識をもつ」「自分との関わりで考える」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」の四つの学習活動の指導について工夫改善した授業実践事例を紹介します。

それぞれの授業実践事例では、いくつかの学習活動の指導についての工夫改善を紹介しています。重点を置いた学習活動については、次の例のように白抜きの見出しで示してあります。

例) **多面的・多角的**

### 「授業の実際」のページの見方

- ・「授業の実際」には、教師と子どもの対話が掲載されています。「T」は教師の言葉、「C」は子どもの言葉です。
- ・下線のある「T」（教師の言葉）は、工夫改善した発問や問い返しです。また、（ ）にはその発問や問い返しをもつ役割が示してあります。  
(P15 コラム「発問と発問の構成について」参照)
- ・「工夫改善の実際」には、授業者の考えや意図などがまとめてあります。
- ・「子どもの姿」には、工夫改善した手立てに対しての子どもの姿がまとめてあります。
- ・「学習指導改善の成果」には、本時の授業全体についての成果や、振り返りでの子どもの反応などがまとめてあります。

学習活動①		<b>問題意識をもつ</b>	
主 題	友達のことを考えて		
内容項目	B一（9） 友情，信頼		
教材名	第4学年	<b>絵はがきと切手</b>	

## 1 主題設定の理由

本主題の内容項目は、低学年では友達と仲よく助け合うことや友達をもつよさを感じ取らせることをねらいとしている。中学年では互いのことをよく理解し、信頼することをねらいとしており、健全な仲間集団を育成していくことが大切である。友達のよさを発見して理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたりして、互いに助け合うことで、友達の大切さを実感したりすることができるようにしていきたい。

子どもたちは男女の仲がよく、休み時間に一緒に遊んだり、話をしたりと楽しく過ごす姿が見られる。事前アンケートでは、「5時のチャイムが鳴ったのに友達が遊んでいる姿を見たときにどうしますか。」という質問に対し、友達を注意すると答えた子どもは29人中21人おり、何もしないと答えた子どもは4人だった。しかし、実際には、お互いに注意し合えるようにはなっていない場面も見られる。

本教材は、料金不足の定形外郵便物をもらったひろ子が、送り主である転校した仲のよい友達の正子に料金不足のことを伝えるかどうか迷い葛藤する内容である。ひろ子は、今まで仲よくしていたことを振り返り、最後は「きっと分かってくれる。」と信じて料金不足を教える決心をする。子どもがこれまでの友達との関わり方と、ひろ子と正子の関係を比較することで、友達として相手のことを考える大切さや本当の友達とはどういうものかを考えることができるであろう。

ひろ子と正子のように、お互いを尊重し、友達のよさに気付き、欠点を補い、助け合いながら成長できるような信頼関係を築いていくことの大切さに気付いてほしいと考える。

## 2 着目した学習活動での工夫改善の手立て

### 問題意識をもつ

- ・事前アンケートでも、楽しい時を過ごす相手を友達と捉えている様子が伺えた。導入時に、アンケートの結果を提示して話し合うことで、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行うとともに、自分がこれまで考えていた友達との関わりを振り返り、友達とよりよい関係を築くことについて問題意識をもてるようにする。

### 多面的・多角的

- ・グループ学習で互いの考え方などを交え、友達との関わり方や考え方は多様であることに気付かせるようにする。さらに自分の考えを見つめ問い返しながら、より深められるようにする。話合いの際に、自分の考えや立場を明確にして話合いができるように、2色の三角錐（心コーン）を活用する。

### 3 展開案

○基本発問    ◎中心発問    □問い返し

展開案の完全版は、総合教育センターWebページからダウンロードできます。



	学習活動・発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点・評価の場面
導入	<p>1 自分にとって友達はどんな人か考える。 ○この前みなさんに書いてもらったアンケートの結果を今から見せます。クラスの友達は、どんなことを書いていたと思いますか？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>事前に取りったアンケートの内容</b></p> <p>1. 友達とは自分にとってどんな人ですか。 2. 5時のチャイムが鳴ったのに友達が遊んでいる姿を見たときにどうしますか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【アンケートの結果を見た後の反応】</b> (1より) ・自分と同じ考えが多いな。 (2より) ・友達を注意すると答えた人が多いな。 ・明日先生に言うと思えば答えた人も多いな。</p> </div>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>問題意識をもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が友達だと思っている特定の子を思い浮かべ、教材に近い例を提示したときに自分が取る行動を考えさせることで、本時の道徳的価値に対して問題意識をもって授業に臨めるようにする。</li> </ul> </div>
展開	<p>2 資料を読んで、道徳的価値について考える。 ○正子さんから手紙をもらったとき、ひろ子さんはどんな気持ちになったでしょう。 ○母と兄の意見を聞いて、ひろ子さんはどんなことを考えて迷ってしまったのでしょうか。 ○自分がひろ子さんの立場だったらどうしますか。 ◎どうしてひろ子さんは正子さんに教えることができたのでしょうか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【料金不足を伝えても、正子さんは怒らないだろうという反応に対して】</b> □なぜ怒らないと分かるの？ ・言いにくいことだけど「自分のためを思って言ってくれたんだ」と思ってくれるだろう。  □自分のためを思ってくれたと、なぜ言えるの？ ・料金不足のことを言っても、意地悪で言っている訳ではないと分かってくれると信じているから。</p> </div>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>多面的・多角的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで考えを伝え合い、話し合いをさせることで、母と兄のそれぞれの立場に立って多面的・多角的に考え、友達としてどうすることが一番よいのか、自分の考えを深めることができるようにする。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>●評価の場面</p> <p>友達の正子から料金不足の定形外郵便物の手紙をもらい、葛藤するひろ子の気持ちについて、自分との関わりで考えたことを基に、「心コーン」を操作しながら話し合いをすることで、多様な考えがあることに気付けるようにする。</p> <p>正子に対してどのように対応することが、友達としてのよい関わり方なのか、他の人の多様な考えを交え、自分との関わりで考えながら、よりよい友達との関係について考えることができているか見取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達として、相手のために言いにくいことでも言い合えたり、お互いに高め合えたりする関わり方もあることに気付かせる。</li> </ul> </div>
終末	<p>3 自分と友達との関わりについて、生活を振り返る。 ○今日の学習を通して、本当の友達になるためには、どんなことが大切だと思ったか、感想を書きましょう。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の教材の内容に近い教師の経験を話す。</li> </ul>

#### 4 授業の実際 I (導入の場面)

#### 問題意識をもつ

導入の場面で、事前アンケートの結果を提示し、これまでの友達との関わりについて振り返り、本時のねらいとする道徳的価値に関連付け、問題意識をもたせるようにした。

T : 「友達とは自分にとってどんな人ですか。」というアンケートには、このようなことが書かれていました。

##### 1. 友達とは自分にとってどんな人ですか。

- ・いっしょに遊んでくれる人。
- ・やさしい。
- ・助けてくれる。
- ・仲のいい人。仲よし。
- ・わたしの意見に賛成してくれる。
- ・けんかをする。
- ・けんかするけれど、仲直りできる人。

C : (納得した様子)

T : 二つ目のアンケート「5時のチャイムが鳴ったのに友達が遊んでいる姿を見たときにどうしますか。」ですが、どれが一番多かったと思う？

##### 2. その友達が5時のチャイムが鳴ったのに遊んでいる姿を見たときにどうしますか。

- |           |     |
|-----------|-----|
| ①友達を注意する  | 21人 |
| ②何もしない    | 4人  |
| ③明日、先生に言う | 0人  |
| ④その他      | 4人  |

C 1 : 友達を注意する。

T : 二番目はどれだと思う？

C 2 : 明日、先生に言う。

T : 何でそう思うの？

C 3 : まずは自分たちで注意するから。次の日になったら先生に言います。

T : そうなんだ。じゃあ、みんなが廊下を走っていたら先生が注意しなくても、みんなで注意し合えるんだね。(機転を促す問い返し)

C : そういう訳じゃない。

T : 何でそう訳じゃないのかな？

C : …。(悩み、考えるが答えが出ない)

T : 結果を見てみると、こうです。

(隠していた人数を発表する)

T : 二番目に予想した「明日、先生に言う」は誰もいませんでしたよ。

C : えー。(驚いている)

T : 今日は、本当の友達とはどのような人のことかみんなで考えていきましょう。

#### 工夫改善の実際



##### ■ アンケート質問項目の検討

- ・本時で扱う道徳的価値に対応する問題意識をもてるように、アンケートの質問項目の検討をした。仲のよい友達には、注意できない自分に気付けるように、二つの質問を設定した。一つ目は、今の友達について問い、二つ目は、友達との関わり方について問いかけた。
- ・子どもの理想の関わり方は、注意し合える関係だが、実際には注意し合えたり注意しづらかったりすることを気付かせる。子どもたちは、友達の関わり方の理想と現実には差があり、なぜできないのか、どうすれば理想の友達との関わり方に近づけるかなど、自分との関わり方で問題意識をもてるようにした。

##### ■ 問い返し

- ・自分との関わり方で問題意識をもてるようにするために、友達との関わり方の理想と現実に気付けるように意図的に問い返しをした。



#### 子どもの姿

アンケート結果を発表する際に、興味を引き出そうと「どれだと思う?」「何だと思う?」と問いかけると、子どもは活発に発言していた。しかし、二つ目の結果を問い返されると、疑問をもち考えはじめた。また、終末の振り返りでは、アンケート結果と比較して自分の心の変容に気付いた子どもの発言があるなど、一貫して問題意識をもちながら本時の授業に取り組むことができた。

## 5 授業の実際Ⅱ（展開の場面）

### 多面的・多角的

展開の場面では、「お礼だけ伝えれば良い」というお母さんと「料金不足であることを知らせた方が良い」というお兄さんの両方の意見を聞いて、主人公が葛藤する場面を取り上げた。お母さんとお兄さんのそれぞれの意見の根拠を考え、グループ学習で互いの考え方などを交えることを通して、多面的・多角的な考えを共有し、そこからさらに深く考えられるようにした。

T : お母さん、お兄さんどちらの立場もいますね。お友達の意見を聞いて、どうすることが一番いいと思うか、もう少し話し合ってください。そのときに心コーンの色を変えてもいいですよ。

……………グループでの話し合い……………

T : 最初の自分の考えと変わった人？

C : (約半数が挙手)

T : どうして、最初の自分の考えと変わったの？

C 1 : はじめは、お礼だけ言うという考えだったけど、料金不足のことも言わないと正子さんがまた同じ間違いをしまい、受け取った人が嫌な思いをしてしまうかもしれないので、ひろ子さんは、料金不足のことも言った方がいいと思ったから。

C 2 : 私も、正子さんがまた同じ間違いをしてしまうかもと考えていて。もちろん優しさでお礼だけ言うことも必要だけど、もうちょっと深く考えてみると、やっぱりお友達のために、料金不足について言ってあげた方がいいかなと思ったからです。

#### 工夫改善の実際



#### ■「心コーン」の活用

- 自分の考えや思いの立場が明確だった場合には、どちらか一色を示して話す。どちらでもない場合や、迷っている場合などは、両方の色を示して話す。対話しながら考えや思いが変わったら、色を変えてもよいことにした。



「お母さんの立場（桃色）」



「お兄さんの立場（青色）」

#### ■学習形態

- 一人一人の考えを話せる時間がもてるように、三人組（少人数）の話し合い活動を取り入れた。短時間で互いの意見を交流させたことにより、自分と違う意見を聞いて考えを変えたり悩んだりしながら、考えを深めることができたようにした。

#### 子どもの姿

「心コーン」を活用し、自分の考えや立場を明確にしながら対話したことで、同じ色でも考えが違っていたり、違う色を出していたけれど、友達の意見に納得して色を変えたり、どちらの立場も分かるから2色を並べたりするなど、子どもの思考の過程の様子が見られた。



学習形態と「心コーン」

## 6 学習指導改善の成果

教材の中に含まれる道徳的価値と関連があるアンケート結果を活用した導入により、展開、終末まで子どもは常に問題意識をもちながら学習を進めることができた。また、「心コーン」を活用して三人組で話し合うことで、異なる考えに触れながら多面的・多角的に考えを深めることができた。「みんなの意見を聞いて、考えが変わり、もっとよく考えることができてよかった」「これまでの自分はどうだったかなど考えることができた」などの感想があり、友達について深く考えることができた授業であったと考えられる。



## 学習活動②

# 自分との関わりで考える

主 題	よいと思うことはすすんで
内容項目	A一(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任
教材名	第1学年 <b>ぽんたとかんた</b>

## 1 主題設定の理由

本主題の内容項目は、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことをねらいとしている。低学年の段階では、積極的に行うべきよいことと、人間として、してはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。よいことと悪いことを区別し、よいと思ったことができた時のすがすがしい気持ちを想起させ、正しいことを進んで行おうとする態度を育てていきたい。

子どもたちの多くは、学校生活の中で、よいと思ったことを進んで行うことができる。その反面、悪いことと分かっているにもかかわらず誘惑に負けてしまう子どももいる。

本教材は、仲よしのぽんたとかんたが主人公である。公園で一緒に遊んでいたぽんたとかんただが、かんたは、ぽんたが止めるのも聞かずに入ってはいけぬ裏山へ入ってしまう。ぽんたはじっと考えて「ぼくは行かないよ。だってあぶないから。」と叫び、その声に驚いたかんたは裏山から飛び出してくる。子どもの日常生活にも似たような経験がある。自分自身と重ね合わせてぽんたとかんたの思いを想像しながら、よいと思うことを進んで行うことについて考えることができるだろう。

ぽんたのように友達から誘われたときに、迷う気持ちがあっても悪いことを断り、よいと思うことを進んで行うことよさに気付かせたいと考える。

## 2 着目した学習活動での工夫改善の手立て

### 問題意識をもつ

- ・実生活での子どもだけでは行ってもいけない場所の写真を見せながら発問することで、やってもいけないと分かっているにもかかわらず、友達と一緒にだと正しい判断ができないことがあることに気付かせ、善悪の判断について問題意識をもてるようにする。

### 自分との関わり

- ・ぽんたが、「ぼくは行かないよ。」と言った場面を役割演技することで、ぽんたがどのような気持ちで言ったのか、正しく判断できたときは、どのような気持ちかだったかなどについて、自分との関わりで考えることができるようにする。

### 3 展開案

○基本発問    ◎中心発問    □問い返し

展開案の完全版は、総合教育センターWebページからダウンロードできます。



	学習活動・発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点・評価の場面
導 入	<p>1 友達から悪いことを誘われたら、自分ならどうするか考え、話し合う。</p> <p>○友達にいけないことをしようと誘われたとき、あなたはどう思いましたか。</p> <p>【予想される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろそうだな。</li> <li>・みんながやっているから、やってみたい。</li> <li>・だめなことはやらない。</li> <li>・注意すると何か言われるかな。</li> <li>・先生に言おう。</li> <li>・注意しよう。</li> </ul>	<p><b>問題意識をもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとって魅力的だけれども行ってはいけない身近な場所の写真を見せ、自分ならどうするか考えられるようにすることで、本時の道徳的価値である「善悪の判断」について考えていこうとする意識をもたせる。</li> </ul>
展 開	<p>2 資料を読んで、話し合う。</p> <p>○一人になったぼんたは、どんなことをじっと考えたのでしょうか。</p> <p>◎ぼんたは、どうして「ぼくは行かない。」と言ったのでしょうか。</p> <p>・行きたいけど、行ってはいけないところだから「ぼくは行かない」と言いたかった。</p> <p>□何で大きな声で言ってみたの？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かたがけがをしてしまうと大変だから。</li> <li>・かたは怒るかもしれないけど、行ってはいけないのだから行かないって言いたかった。</li> <li>・やってはいけないと思ったら、やらないことが大事だと思ったから。</li> <li>・やらないことが大事だと言うことをかたにも教えなくちゃと思ったから。</li> </ul> <p>□同じように自分がよいと思ったことを友達に言ったことがありますか？その時、どんな気持ちでしたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いい気持ち。</li> </ul> <p>3 自分の心を見つめる。</p> <p>○二人でブランコに乗っている、ぼんたとかたに手紙を書きましょう。</p>	<p><b>自分との関わり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぼくは行かない。」と言った場面のぼんたの役割演技をさせ、その時のぼんたの考えや気持ちなどについての根拠を問い返しすることで、自分との関わりで考えられるようにする。</li> <li>・いけないことを断るときの気持ちや相手に自分の意見を伝えられたときの気持ちについて考えさせる。また、その行動の支えとなる、よいことを実現したいという心の動きについて気付かせる。</li> </ul> <p>●評価の場面</p> <p>ぼんたが「行かない」と決めて大きな声で言ったときの考えや気持ちを基にして、よいと思ったことをしたときの気持ちを考えられるようにする。</p> <p>ぼんたの気持ちを基に、よいと思ったことを大きな声で言ったとき、どのような気持ちだったかについて考え、よいと思ったことをしたときの気持ちよさについて気付くことができているか見取る。</p>
終 末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しいことと悪いことに迷ったときの体験について話す。</li> </ul>

#### 4 授業の実際 I (導入の場面)

#### 問題意識をもつ

導入の場面で、教材のねらいに関連付けた問題意識をもたせるために、子どもだけでは行ってはいけない、子どもたちにとって身近にある魅力的な場所を写真で提示して考えさせたことで、迷ったり誘惑に負けたりしたときの弱い気持ちなどを想起させ、本題材の道徳的価値の方向付けを図ることができた。

T : これは工事現場の場所です。

C 1 : わあ～。

C 2 : 私知ってる。



T : もし、友達に工事現場に行こうと誘われたとき、どう思うかな？

C 3 : ちょっと行きたいけれど、やめよう。

C 4 : 行きたいけど、迷子になっちゃうから行かない。

C 5 : 行きたいけれど、けがをしちゃうから。

C 6 : 行っちゃだめ。

T : 行きたいけれど、行っちゃだめっていう気持ちがあるんだね。迷ったときに大切なのはどんなことか、今日はみんなで考えていきましょう。



#### 子どもの姿

工事現場の写真を見た多くの子どもは、歓声を上げて興味を示し、友達につぶやいたり、先生に話しかけたりする姿が見られた。しかし、「友達に誘われたら行くか」と問われたとたん、子どもの高まる気持ちは消え、迷い、考えはじめた。子どもの身近な生活から考えられるようにしたことで、問題意識をもつことができ、ねらいに関連する道徳的価値につながる導入とすることができた。

#### 工夫改善の実際



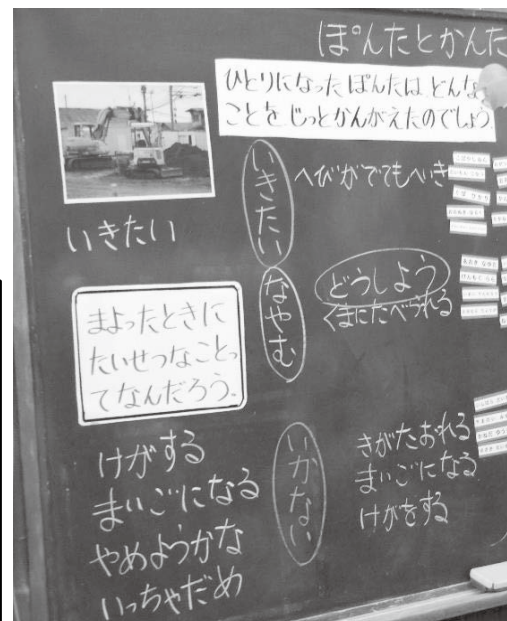
#### ■導入時の話題の選定

・教材で問題にしたい場面と似たことが起こりそうな場所の写真を、授業の導入で提示することを考えた。どのような場所であれば、子どもが魅力的に感じるか検討し、学校近くの「工事現場」、「空き家」、「公園の裏山」の三カ所に決め、写真撮影を行い、準備をした。

授業で写真を紹介する際には、写っているショベルカーや裏山の様子などを具体的に説明することで、子どもたちの想像をかき立てて、より興味・関心を高めることができた。

#### ■板書計画

・発問からの子どもの反応や姿を想定したところ、大きく(行きたい)、(行かない)の二つの意見が出るのではないかと考えた。そこで、子どもからの回答を分類し、対比して示せるように、板書計画を立てた。



展開の場面では、教材の道徳的価値に迫ることができると考えられる場面で役割演技を取り入れ、ぽんたがとった行動やその時の気持ちなどを追体験できるようにした。その後、問い返しをしながら、これまでの自分を振り返り、同じような体験をしたことを想起させることで、自分との関わりで考えられるようにした。

T : 「ぼくは行かない。」と言った場面のぽんたくんになって、かんたくんとお話をしてみましょう。

……………役割演技……………

T : はやくおいでよ！（かんた役）

C1 : 行かないよ。（大きな声）（ぽんた役）

T : 一緒に行こうよ！

C1 : いやだよ。

T : なんで行かないの？

C1 : あぶないから。

T : 友達でしょ？行こうよ。

C1 : ……（迷う）、行かない。

…ここで役割演技を終わらせ、質問する…

T : なんで大きな声で言ったんだと思う？

C1 : やっぱり行っちゃだめということをかんたくんに伝えたかったから。

T : だから、大きな声になったんだ。こういうふうに、どうしようか迷って正しいことをしようと決めたことはありますか？正しいことをした後は、どのような気持ちでしたか？

### 子どもの姿

演じた子どもも見ていた子どもたちも、ぽんたはどうして大きな声で「行かないよ」と言ったのかについて、考える姿が見られた。自分の経験や感じたことや考えたことなどを基に、つぶやいたり発表したりする姿が見られた。

## 6 学習指導改善の成果

写真を活用したことにより、教材の問題の場面は、普段の生活でも起こり得ることに気付かせ、さらに、役割演技を取り入れたことにより、よいことと悪いことに出会い迷ったときに大切なことは何か、自分との関わりで考えることができたと考えられる。振り返りでは、「ぽんたくんの役をやっていっぱい考えた」などの意見があり、善悪の判断について考えることができた授業であったと考えられる。

### 工夫改善の実際



#### ■役割演技の場面を選ぶ

- ・「ぼくは行かない」とぽんたが言う場面と「ぼくも行かない」とかんたが言う場面のどちらに役割演技を取り入れるか、子どもの実態を考慮して検討した。「行かないよ」と大きな声を出して言ったぽんたの場面で役割演技を取り入れた方が、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする気持ちに気付けるのではないかと考え、この場面を選んだ。
- ・役割演技を行う際には、役割演技をした子どもだけでなく、見ている子どもにも考えることができるように、「みんなも、ぽんたくんになったつもりで、どんな気持ちで言ったか考えながら見てくださいね」と確認した。そうしたことで、役になった子どもに質問をしたところ、見ている子どもにもその質問に対してつぶやく姿が見られた。また、今回は、4名を意図的指名して役割演技を行わせたことで、多様な考えを引き出すことができた。



**学習活動②****自分との関わりで考える**

主 題	正しいことは自信をもって
内容項目	A一(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任
教材名	第3学年 <b>二つの声</b>

**1 主題設定の理由**

本主題の内容項目では、正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする態度を育てることをねらいとしている。人として行ってよいことを区別したり、判断したりできるようにするためには、よりよくなりたいという自分を思い描けるようにすることが大切である。そのためには、過信や身勝手ではない、自分を信じる姿勢がなくてはならない。しかし、人は時として悪いと知りながらも、自分の弱さに負けて実行できなかつたりすることもある。3年生は、その発達段階において、正しいことや正しくないことについての判断力が高まってくる時期である。これまでの自分を振り返り、正しいことを行ったときの充実した気持ちを考えるなどしながら、正しいと思うことに自信をもって取り組めることが大切であるということを理解できるようにしたい。

子どもたちの多くに、学校生活の中で、正しくないと分かっているながらも自分の弱さに負けて周囲に流され、失敗したり友達に嫌な思いをさせてしまったりしてしまう姿が見られる。

本教材は、教室で花びんを割ってしまった正二が、「黙って帰れ」という心の声と「それではいけない」という二つの心の声に悩まされるという、心の葛藤が描かれている。子どもの日常生活でも起こり得るような内容であり、自分との関わりで考え、正しいことや正しくないことをしっかりと区別したり、判断したりすることについて考えることができるだろう。

正しいことを行えなかったときの後ろめたさや、自らを信じて正しいことを行ったときの充実した気持ちに気付かせ、正しいと判断したことを、自信をもって行っているようにしたいと考える。

**2 着目した学習活動での工夫改善の手立て****問題意識をもつ**

- ・日常において、周囲に流されて、善悪の判断ができずにトラブルになることがある。そこで、導入において、「なぜ、正しいと分かっているでもできないのか」という発問をすることで、子どもに普段の生活を振り返りながら考えさせ、教材の道徳的価値との関連を図り、「善悪の判断」について問題意識をもてるようにする。

**自分との関わり**

- ・教材では、正二が葛藤する場面で終わる。なぜ正二は葛藤するのか、その理由について多面的・多角的に考えさせた後に、「あなたが正二だったら、この後どうしますか？」と投影的に問う。そうすることで、自己を見つめ、これまでの自分との関わりで深く考えられるようにする。

### 3 展開案

○基本発問    ◎中心発問    □問い返し

展開案の完全版は、総合教育センターWebページからダウンロードできます。



	学習活動・発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点・評価の場面
導入	<p>1 アンケートの結果を知り、「善悪の判断」について問題意識をもつ。 ○なぜ正しいと分かっているにもかかわらずなのでしょう。</p> <p>【予想される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当のことを言うとはらわれてしまうから。</li> <li>・自分が伝える勇気がなかったから。</li> <li>・よく考えず、ついついやってしまったから。</li> </ul>	<p><b>問題意識をもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果から、正しいことができなかった具体的な場面を想起させることで、その時どのような心の迷いや考えでいたのかを振り返ることができるようにする。また、人間の弱さをクラスで共有し、なぜできなかったか、どうすればできたのかななどの問題意識をもてるようにする。</li> </ul>
展開	<p>2 資料を読んで、道徳的価値について考える。 ○二つの声を聞いて、頭を抱え込んだ正二くんは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>【予想される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が正しいか分からない。</li> <li>・このままでは※二郎くんが叱られてしまう。</li> <li>・もう正直には言えない。</li> </ul> <p>※正二が割って継ぎ合わせて置いておいた花瓶に手が触れて崩れ、花瓶を割った張本人にされてしまう子ども。</p> <p>◎あなたが正二くんだったら、この後どうしますか？</p> <p>【正直に話す反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに学校に戻って話をする。</li> <li>・すぐには戻らずに、一度家に帰って、次の日に話をする。</li> </ul> <p>□どうしてそう思ったの？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二郎くんのせいになってしまうから。</li> <li>・自分が悪いことをしたのに、他の人のせいになってしまうから。</li> </ul> <p>□でも、話をしたら二郎くんに怒られるんじゃない？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒られても仕方が無い。自分が悪いのだから。</li> <li>・うそをつこうとしたのだから仕方が無い。</li> <li>・怒られても正直でいたい。</li> </ul> <p>【話さない反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正直に言うべきだとは分かっているが自信がない。</li> <li>・叱られるから、隠してしまう。</li> </ul> <p>3 正しいことを行ったときの考えや思いを振り返る。 ○自分が正しいと思うことができた経験はありますか？</p>	<p>・登場人物がたくさん出てくるため、子どもが混乱しないように、朗読CDを聞かせながら、ペープサートを使うことで、誰の発言なのか分かりやすくする。</p> <p><b>自分との関わり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の問題の場面で、「あなたが正二だったらこの後どうするか？」と投影的に問うことで、正二の姿を通して、自己を見つめ、自分との関わりで、心の迷いや葛藤などを考えられるようにする。</li> </ul> <p>・まずは個人で考えさせてワークシートに記入させてから、グループで話し合いをさせる。</p> <p>●評価の場面</p> <p>投影的に問い、正二の善悪の判断について自分との関わりで考えられるようにする。また、正しいと判断して行ったときを振り返り、その時の気持ちについて考えられるようにする。</p> <p>正しいことを行えないときの後ろめたさや、自ら信じることに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちについて考えることができているか見取る。</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・善悪の判断に迫られた場面や、正しいと判断して行ったときの教師の体験談などを話す。</li> </ul>

「正しいと分かっているけどできなかったことはありますか？」というアンケートを行い、導入でアンケートの結果を提示した。同じような経験を想起させ、本時のねらいとする道徳的価値について方向付けを図ることで、教材の中の問題に気付かせ、善悪の判断について問題意識をもてるようにした。

T : 正しいと分かっているけどできなかったことをアンケートから、確認してみよう。

(アンケート結果を読み上げる)

T : 宿題が終わっていないのに、終わったとうそをついた。

※「ある」「ない」で挙手させる。

T : 友達に嫌なこと言ってしまったのに、ごめんと行わずに行ってしまった。そういう経験ってあるかな？

C1 : うん。

T : そうだね、あるよね。なぜ、できなかったのかな？(根拠を問う発問)

C2 : 言いづらかった。

C3 : 叱られるから。

C4 : 嫌われるかもしれないから。

T : なるほど。これからお話しする中に出てくる正二くんも、同じような経験で悩んでいます。どのような経験なのか、みていきましょう。

### 工夫改善の実際



#### ■アンケートの活用

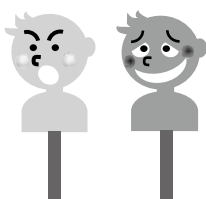
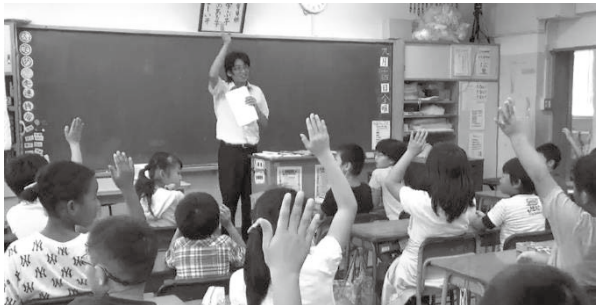
- ・教材と似たような場面を同じように経験しているであろう子どもの実態を踏まえ、そのことを想起できるようにするために、アンケートを活用することにした。
- ・教材の道徳的価値を方向付けると同時に、問題意識をもたせられるようにするために、善悪の判断をした経験を振り返らせ、その場면을想起できるように質問を検討した。

#### ■問い返しと問題の共有

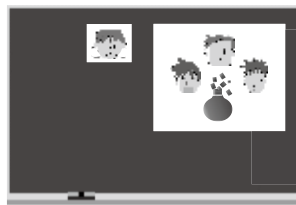
- ・アンケートの結果を読み上げながら、同じ経験がある場合に挙手させることで、子ども同士で共通の問題があることに気付かせた。
- ・子どもの反応に対して「なぜ、できなかったか」と根拠を問い返した。そうすることで、人間の弱さに気付かせ、本時のねらいとする道徳的価値価値への方向付けができるようにした。

### 子どもの姿

アンケートの回答に対して、多くの子どもが「ある」と言いながら共感したり、自分を振り返りながら「ないかな」とつぶやいたりしていた。「似たような経験はあるか」と問われると、挙手をしながら周囲を見渡す姿が見られた。このことで、皆同じような経験をしていることが共有することができた。



ペープサート



場面絵

本教材は、台本の形式で書かれている。子どもの実態に合わせ、物語の内容を理解しやすいように、場面絵とペープサートを活用した。また、教師は範読せずに、朗読CDの台詞に合わせてながら、教師が二つの心の声をペープサートで示すことで、視覚的に正二の心が葛藤していることを示した。

正二が、頭の中の二つの声を聞きながら頭を抱え込む最後の場面の続きを投影的に問うことで、正二の問題を自分事として捉え、今までの自分を振り返りながら自分との関わりで考えさせた。また、正しいと思うことができた経験はあるかを問い、その時の気持ちと比較できるようにした。

T : 「正二はどうするか悩んで、頭を抱えた」  
って書いてあったね。じゃあ、このあと、  
あなたが正二だったらどうするか？  
正二になったつもりで考えてみよう。  
(投影的な発問) なぜ、そう考えたか  
理由も考えよう。

※個人でワークシートに取り組んだ後、グループで意見を交換し合い、全体で発表。

C 1 : 正直に言って謝ると思います。黙っているのはよくないからです。

T : 謝るって書いた人は、理由を教えてください (考えの根拠を問う発問)

C 2 : 二郎君に悪いから。

C 3 : 謝るとすっきりする。

T : 他には？

C 4 : 私は一度隠してしまう。でも、もやもやするから後で言って謝ります。

T : 授業のはじめは正直に言えなかった経験について確認しましたね。じゃあ、みんなは正しいと思うことができた経験はあるかな？その時の気持ちを書いてみよう。

#### 工夫改善の実際



#### ■ 投影的な発問

- ・正しいと分かっているにもかかわらずできないかを考えさせるために、中心発問で投影的に問いかけた。問うことで、これまでの自分の経験を振り返り、その時の気持ちを想起しながら考えることができるのではないかと考えた。また、子どもたちの様々な意見を共有した後に、正しいことができた時のことを想起させる問い返しを行い、正しいことを行った後の気持ちと、できなかった時の気持ちを比較させることで、正しいことを自信をもって行うことはよいことだと気付かせることができた。



#### 子どもの姿

投影的に問い、自分との関わりで考えられるようにしたことで、グループでの話し合いでは、様々な考えや意見が出された。お互いの意見を聞いて疑問を投げかけたり、さらに違った対応を考えたりする姿も見られた。

## 6 学習指導改善の成果

投影的に問い、自分との関わりで考え話し合わせたことは、人間の弱さを理解することにつながった。その後「正しいと思うことができたこと」を振り返らせたことで、正しいことを行ったときの充実した気持ちなどを想起させ、正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないと判断したことは行わないようにしていきたいなど、道徳的価値について考えを深めることができた。



**学習活動③****多面的・多角的に考える**

主 題	みんなともだち	
内容項目	B-（9） 友情，信頼	
教材名	第1学年	およげない りすさん

**1 主題設定の理由**

本主題の内容項目は、友達と仲よくし助け合おうとする心情を育てることをねらいとしている。低学年の段階では、身近にいる友達と一緒に仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。友達と一緒に勉強したり、仲よく遊んだり、助け合ったりする経験を積み重ねながら、友達とけんかをして、友達の気持ちを考え、仲直りができるようにしていきたい。

学級の子どもは、交友関係にも新しい広がりが出てきている。しかし、まだ自己中心的に振る舞うことも多く、相手のことを考える気持ちが足りない子どももおり、友達の立場を理解したり、自分とは異なる考えを受け入れたりすることが難しいこともある。

本教材は、あひる、かめ、白鳥が池の中の島で遊ぶことになった。りすが一緒に遊びたいから連れて行ってと頼むと、泳げないからという理由で断られてしまう。しかし、島で遊んでいたみんなは、りすのことが気になり楽しく遊べなかった。次の日、りすに昨日のことを謝り、かめの背中にりすをのせてみんなで島へ遊びに行く。仲間外れにした方もされた方も、互いにとって楽しくないと感じることを、本教材を基に子どもの日常生活から捉えられるようにすることで、相手の立場や気持ちや助け合ったいこうとすることについて考えることができるであろう。

島へ遊びに行くみんなとりすの関係には、仲間外れの構図ができています。その状況がお互いにとって楽しくないと感じさせ、友達と仲よくして助け合うことで、お互いに気持ちよく生活できることに気付かせたいと考える。

**2 着目した学習活動での工夫改善の手立て****問題意識をもつ**

・ 普段は仲のよい友達同士でも、けんかをしてしまうことがある。そこで、導入時に事前アンケートの結果を提示しながら、友達との関わりについて自分の体験を想起させたり、友達の体験を聞いたりする活動を行うことで、友達と仲良くすることについて問題意識をもてるようにする。

**多面的・多角的**

・ 自分の考えを交流させるためのグループ学習を行ったり、子どもの発言に対する問い返しを工夫したりすることで、友達について一面的に捉えるのではなく、多様な考えや価値観があることに気付かせ、多面的・多角的に捉えられるようにする。



### 3 展開案

○基本発問    ◎中心発問    □問い返し

展開案の完全版は、総合教育センターWebページからダウンロードできます。

	学習活動・発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点・評価の場面
導入	<p>1 友達との関わりについて想起する。 ○今までに自分が困っているときに助けてもらったことはありますか。</p> <p>【予想される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転んだときに保健室に連れて行ってもらった。</li> <li>・一人でいるときに遊びに誘ってもらった。</li> </ul>	<p><b>問題意識をもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートの結果を活用して、自分の体験を想起させることで、本時の道徳的価値である「友情、信頼」について考えていこうとする意識をもたせる。</li> </ul>
展開	<p>2 資料を読んで、話し合う。 ○「りすさんは、およげないから、だめ。」と言ったとき、みんなはどんな気持ちだったでしょう。 ◎島で遊んでいるみんなは、どうして楽しくなかったのでしょうか。</p> <p>【予想される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りすさんのことが気になるから。</li> <li>・りすさんが悲しんでいるから。</li> <li>・りすさんがかわいそうだから。</li> </ul> <p>□りすさんがいなくても、島に行けば楽しく遊べるんじゃないの？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りすさんが、悲しんでいるから気になる。</li> <li>・りすさんも、仲よしだから一緒に遊びたい。</li> </ul> <p>□りすさんじゃなくても、別の友達を誘えばいいんじゃない？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも遊んでいるから、りすさんがいい。</li> <li>・りすさんが、連れて行ってと言ったのだからりすさんじゃないとだめ。</li> </ul> <p>□りすさんは、泳げないけれど、どうしたらいいかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの背中に乗せてあげればいい。</li> </ul> <p>□りすさんは、どんな気持ちだったのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かなしいな。</li> <li>・さびしいな。</li> <li>・みんなと島へ行きたいな。</li> </ul> <p>○かめさんがりすさんを背中にのせて池を渡っているとき、みんなはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>3 友達との関わりについて、自分の生活を振り返る。 ○みんなが仲よく過ごせるようにするためには、どうしたらいいですか。</p>	<p><b>多面的・多角的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに自分の考えを書かせ、友達とペアで考えを交流させることで、多様な考えに接し、自分の考えを深められるようにする。</li> </ul> <p>●場面絵を活用し、仲間外れにしたみんなの行動と、一人ぼっちのりすの気持ちを対比させながら捉えさせる。</p> <p><b>多面的・多角的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導をしながら一人一人の子どもの考えを把握し、意図的指名を行い、多面的・多角的な考え方を共有できるようにする。</li> </ul> <p>●評価の場面</p> <p>動物たちが、りすを仲間外れにして遊んだときの思いを基にして、友達と仲よくすることのよさについて考えられるようにする。</p> <p>なぜ、動物たちはりすがいないと楽しくなかったのか、様々な考えや気持ちに触れ、動物たちと自分とを重ねることで、友達と仲よくすることのよさについて考えることができていたか見取る。</p>
終末	<p>4 「ともだちはいいもんだ」を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のよさに触れる歌を歌い、余韻を残して授業を終えるようにする。</li> </ul>

#### 4 授業の実際 I (導入の場面)

#### 問題意識をもつ

導入の場面で、事前アンケートを提示して、友達とのよい関係を想起させ、本時のねらいとする道徳的価値について方向付けを図ることで、教材の中の問題に気付かせたり、友達との関わり方について考えさせたりできるようにした。

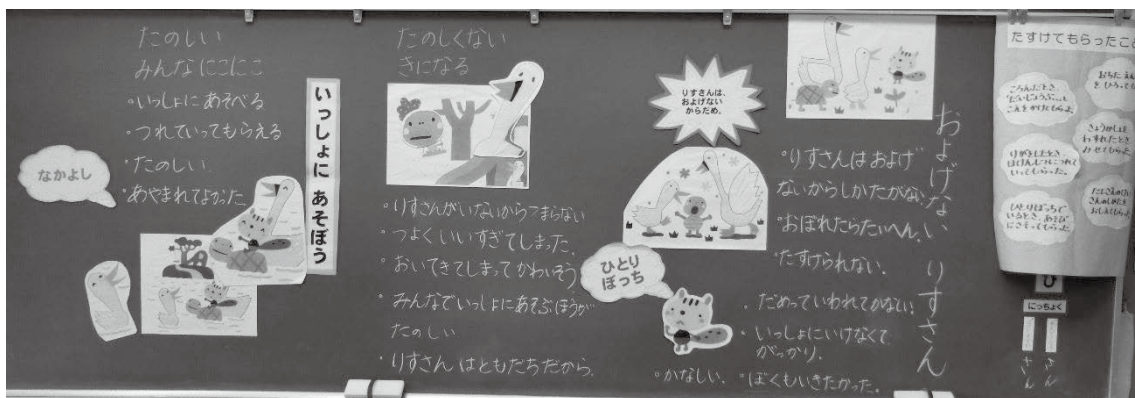
- T : みんなには友達がいますか？  
 C : います。(全員が挙手する)  
 T : 今までに自分が困ったときに、友達にどんなことをしてもらいましたか。  
 C1 : 班長さんにランドセルを片付けてもらった。  
 C : あ〜、ある。(複数名つぶやく)  
 T : 思い出したかな？  
 C2 : けがをしたときに「大丈夫？」と言ってもらえた。  
 T : アンケートでは、「落ちた鉛筆を拾ってもらえた」、「教科書を忘れたとき見せてもらえた」、「計算の仕方を教えてもらえた」、「一人ぼっちだったときに遊びに誘ってもらえた」というのもありました。そのとき、みんなどんな気持ちだった？  
 C : うれしかった。(多数がつぶやく)  
 C3 : やさしいなと思った。  
 T : 今日は、友達についてみんなと一緒に考えていきたいと思います。

#### 工夫改善の実際



#### ■アンケートの活用

- ・友達関係を想起させるために、「友達に助けてもらったことはありますか」というアンケートを行った。自分にとっての友達はどのような存在かについて身近な出来事の中で考えさせたことで、友達の存在について立ち止まって振り返ることができた。
- ・事前にアンケートを行ったことにより、子どもたちの友達に対する考えが把握できた。また、仲のよい友達との関わりについて発表させることで、本時のねらいとする道徳的価値の方向付けを図った。



#### 子どもの姿

教師が、友達との関わりを話題にしたところ、つぶやいたり積極的に発言したりする姿が見られた。また、事前アンケートの内容を発表すると、友達の名前を出しながら自分の経験をつぶやいたり、他にもこんなことがあったと話したりする姿が見られた。

## 5 授業の実際Ⅱ（展開の場面）

### 多面的・多角的

展開の場面では、道徳的価値に迫る場面で、ワークシートに自分の考えを書かせて、ペアでの話し合いを行わせ、考え方の違いを比べさせた。その際、机間指導をしながら一人一人の子どもの考えを把握した。

その後、全体での話し合いの場面では、意図的指名を行い、多様な考え方を引き出すとともに、ねらいに迫るために子どもたちに問い返し、再考させることで、多面的・多角的な意見を共有できるようにした。

T : どうしてりすさんがいないと楽しくないの？

C 1 : りすさんがかわいそうだから。

T : なんでかわいそうなの？

C 2 : 一緒に行けなかったから。

C 3 : りすさんがいないとつまらない。

T : でも、りすさんいなくてもいいんじゃない。すべり台やブランコもあるよ。(条件を変えた問い返し)

C : だめ！（多くの子どもが言う）

C 4 : りすさん泣いてるよ。

C 5 : りすさん一人でさみしそう。

T : りすさんじゃなくても、例えば、かえるさんは泳げるからみんなと行けるよ。そうすれば人数増えるよ。(条件を変えた問い返し)

C : だめ！（多くの子どもが言う）

C 6 : りすさんが、連れて行ってねって言うっていたから。

C 7 : りすさんは友達だから。

#### 工夫改善の実際



#### ■自分と友達の考えの比較と意図的指名

・「どうしてりすさんがいないと楽しくないのか」と問い、ワークシートに書かせた。その後、自分の意見をペアで発表し、お互いの意見を比べられるようにした。さらに、学級全体で共有する場面では、机間指導をしながら、把握しておいた子どもの多様な意見や考えを引き出せるように、意図的指名をした。子どもの意見を構造化して板書に整理することで、多面的・多角的に考えられるようにした。

#### ■中心発問後の問い返し

・子どもの実態を把握した上で、条件を変えた問い返しを準備した。意図的に問い返しをしたことで、動物たちとりすとの関わりや、りすの思いや気持ちに気付かせることができるようにした。

#### 子どもの姿

自分と違った意見が発表される度に、様々な理由があることに気づき、つぶやいたりうなずいたりしながら共感している子どもの姿が見られた。



## 6 学習指導改善の成果

教材に登場する動物たちの、りすに対する友達としての関わり方の問題点に気付かせた。中心発問では条件を変えて問い返しや意図的指名をすることで、多面的・多角的な考えを引き出し、共有することができた。最後に歌う場面では、りすや他の動物たちが楽しく遊んでいるようにみんな笑顔で歌っていた。振り返りでは「友達を大切にすることを知ることができてよかった」などの意見が書かれており、一人一人が対話を通して、友達について深く考えられた授業であったと考えられる。

**学習活動③****多面的・多角的に考える**

主 題	本当の友達
内容項目	B一（10） 友情，信頼
教材名	第5学年 <b>ミレーとルソー</b>

**1 主題設定の理由**

本主題の内容項目では、友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、人間関係を築くことをねらいとしている。子どもにとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。互いに信頼し、磨き合い、高め合うような真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う気持ちを育てていきたい。

事前のアンケートでは、多くの子どもが「友達と仲よく生活している」と答えている一方、特定の友達とばかり一緒にいて、何をするにもその友達と一緒にでなければ安心できない子どももいる。また、子どもの意識は、「本当の友達とは一緒に遊ぶ友達」というところから先に進まない傾向もある。

本教材は、画家のミレーとルソーが同じ村に住んでいた頃の話である。すでに有名な画家であったルソーは、まだ売れない画家であったミレーの絵を、自分が買うとは言わずに「購入したい者がいる」と嘘の申し出を伝える。ルソーがミレーの絵を買ったのは、困窮しているミレーに同情したわけではなく、自分と同じ画家としてミレーの才能を認め、信じ、画家としての自信をもたせたいと考えたからである。ルソーのミレーに対する心と、その友情に気付いて涙を流すミレーの思いを理解することで、二人が今まで培ってきた真の友情に気付くことができるであろう。

ミレーとルソーの関係を考えることを通して、友達との関係について振り返り、相手の置かれている立場を理解し合い、お互いに尊重し、高め合えることに気付かせることで、ねらいとする道徳的価値に迫りたいと考える。

**2 着目した学習活動での工夫改善の手立て****自分との関わり**

- ・ 普段は友達と仲良く話したり遊んだりしている姿が見られるが、それ以上の関係になり得るところまでには至っていない。導入時に「本当の友達」について問い、友達との関わりを振り返ったり、考えたりする機会をもたせることで、本時で学ぶ道徳的価値である「友情、信頼」について自分との関わりで考えられるようにする。

**多面的・多角的**

- ・ 中心発問では、ルソーの立場や思い、願いを多面的・多角的に捉え考えられるようにする。また、子どもからの発言を整理し、構造化して板書することで、多面的・多角的に考えることができるようにする。

### 3 展開案

○基本発問    ◎中心発問    □問い返し

展開案の完全版は、総合教育センターWebページからダウンロードできます。



	学習活動・発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点・評価の場面
導 入	<p>1 日常の友達との関わりについて考える。 ○本当の友達ってどんな人のことを言うのでしょうか。</p> <p>【予想される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一緒にいると元気になる人。</li> <li>つらいときに励まし合える人。</li> <li>家族みたいに大切な人。</li> </ul>	<p><b>自分との関わり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本当の友達について考えさせる質問をすることで、友達との関わりについて意識しながら主体的に取り組めるようにする。</li> <li>事前にアンケートを取り、クラスの友達の思いを紹介する。</li> </ul>
展 開	<p>2 資料を読んで、道徳的価値について考える。 ○ミレーとルソーは、本当の友達と言えるでしょうか。</p> <p>◎なぜルソーは、自分が買うのだと言わなかったのでしょうか。</p> <p>【ルソー自身の気持ちと思われる反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はずかしいから。</li> <li>嘘がばれてしまうから。</li> <li>哀れんでいると勘違いされるから。</li> <li>同じ画家としてミレーを尊敬していたから。</li> </ul> <p>【ミレーのためと思われる反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミレーの生活を助けたいから。</li> <li>ミレーを元気付けたいから。</li> <li>ミレーを喜ばせたかったから。</li> <li>才能あるミレーには絵を描いてほしいから（自信をもたせたいから）。</li> </ul> <p>□生活を助けたいってどういうこと？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミレーがもっと絵に集中できるように、生活を助けたいということ。</li> </ul> <p>□お金をあげることでもできたのではないかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お金をあげても、ミレーは遠慮してしまうと思う。</li> </ul> <p>○絵に気付いたときのミレーは、どんな思いだったのでしょうか。</p> <p>3 自分の生活を振り返る。 ○本当の友達であるために大切にしたいことは何か考えましょう。</p>	<p><b>多面的・多角的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他にも手助けする方法が色々ある中において、ルソーが取った行動を考えさせることで、ルソーの思いについて多面的・多角的に捉えられるようにする。</li> </ul> <p>●評価の場面</p> <p>ミレーとルソーの関わりの中で、ルソーが嘘をついた理由を、立場や状況を変えながら多面的・多角的に考えられるようにする。</p> <p>なぜ、ルソーは嘘をついたのか自分との関わりで考えることで、友達同士の信頼や互いに磨き合い高め合うこと、互いを尊重し合うことなど、様々な友達との関わりについて考えることができているか見取る。</p>
終 末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が、親友との関わりについて考えたことや、友人との良い関わり方などについて体験談を話す。</li> </ul>

#### 4 授業の実際 I (導入の場面)

#### 自分との関わり

本時の道徳的価値である「友情」について考えを深められるようにするために、導入では、アンケートの結果を基に、これまでの自分を振り返り、友達の存在や関わりなどについて、自分との関わりで考えさせることができた。

T :ここに二人の人がいます。二人の関係は友達同士です。



T :みんなに聞いてみたいと思います。本当の友達ってどんな人のことをいうのかな？

C 1: 親しい関係の人。

C 2 : どんなときも助け合う。

C 3 : 困ったときに助けてくれる。

C 4 : 信頼できる人。

T : アンケートでは、このようなことが書かれていましたね。

- つらいことがあっても一緒に乗り越えられる人
- 自分のことを分かってくれる人

T : 今日本当の友達について考えていく時間にしたいと思います。



#### 工夫改善の実際



##### ■アンケートの活用

- 子どもの実態を把握するために、教材の道徳的価値に関連した「友達」についてのアンケートを行った。
- 本時では、改めて「自分にとっての友達」について問い、これまでの友達と自分との関わりについて振り返りながら考えさせ、子どもの考えを板書した。多様な考え方があることを押さえるために、発表に出てこなかった考えを、アンケートから紹介した。

##### ■教材の工夫

- 友達について問うときに、黒板に人の顔のシルエットを向き合わせて掲示した。向き合わせた顔のシルエットを掲示したことで、自分と相手という関係性を視覚的に捉え、友達について自分との関わりで考えることができるようにした。



#### 子どもの姿

アンケートを整理して提示するのではなく、導入時にアンケートと同じ発問をしたことで、改めて自分との関わりで友達関係について考えることができ、多くの子どもが積極的に挙手をし、それぞれの友達についての考えを発表することができた。

## 5 授業の実際Ⅱ（展開の場面）

### 多面的・多角的

根拠を問う問い返しや、条件を変えて考えさせる問い返しを行ったことで、多面的・多角的な考えを引き出すことができた。子どもも問い返しごとに、徐々に考えを深めることができていた。また、予想される発言から、あらかじめ板書計画を立てておいたことで、子どもの発言を分類、整理しながら板書することができた。



T : なぜルソーは、自分が買うのだと言わなかったのでしょうか。

…三人組での話し合い活動で共有した後…

C 1 : ミレーのことを陰で支えたいから。

T : 陰で支えたいってどういうこと？  
（根拠を問う問い返し）

C 1 : 自分で買うって言うと、ミレーが遠慮しちゃうから。

T : 何で遠慮しちゃうんだろう？

C 1 : 友達だから。

C 2 : ミレーの夢を叶えてあげたかったら。

C 3 : 応援したかったから。

T : 絵を買うことが応援することだと思ったの？どうして？

C 3 : ミレーはお金がないから、絵を買ってあげて少しでもよい暮らしをさせてあげたかった。

T : お金を渡すこともできたんじゃない？  
（条件を変えた問い返し）

C 4 : 絵を買ってあげた方がミレーはうれしいんじゃないかと思ったから。

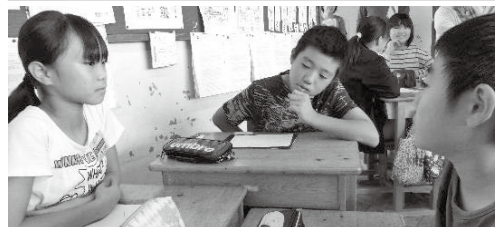
C 5 : 次の絵を描く自信につながるから。

C 6 : ミレーが見ていないところで応援したかったからだと思う。

#### 工夫改善の実際

##### ■板書の構造化

- 子どもの反応、発言を予想することで、板書計画を立てることに生かすことができた。ミレーとルソーの顔の絵を向き合うように貼り、その間に中心発問を提示した。あらかじめ、発問に対して「ルソー自身の気持ちと思われる反応」「ミレーのためと思われる反応」を板書する場所を決めておいたことで、中心発問や問い返しに対する子どもから出た様々な考えを分類、整理しながら板書することができた。また、板書を分類、整理したことで、視覚的に多様な考えがあることに気付かせたり、友達の考えからさらに考えを深めさせたりするなど、多面的・多角的に考えさせることができた。



#### 子どもの姿

考えの根拠を問いかけたり、条件を変えた問い返しをしたりすることで、発表者以外の子どもも一緒に多面的・多角的に深く考える様子が見られた。その後、三人組で話し合いを再開すると、せきを切ったかのように話しはじめ、様々な考え方や意見が交換され共有することができた。

## 6 学習指導改善の成果

教材を通して自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりしたことで、本時のねらいである「友情、信頼」に迫ることができた。振り返りでは、「相手（友達）のことをよく考えて行動したい」「相手が信頼できるように、相手を思って助け合ったりするのが大切」「お互いに信頼できることが、よい友達だと思う」などがあり、これまでの自分が考えていた「友達」を振り返りながら、これからの自己の生き方について深く考えることができたと考えられる。



**学習活動④****自己の生き方について考えを深める**

主 題	みとめ合う心
内容項目	B-（11） 相互理解，寛容
教材名	第5学年 <b>名医、順庵</b>

**1 主題設定の理由**

本題材の内容項目では、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのか、相手の立場に立って考えることをねらいとしている。人は、自分の不完全さを自覚していれば、自分のものの見方、考え方が絶対に正しいということはありません。そのことから、自分も同じ過ちを犯してしまうかもしれないと考え、相手の過ちに対して許す心も生まれる。よりよい人間関係を構築するためには、広い心で相手の立場に立って認め合い、尊重し合うことが大切であるということを理解できるようにしたい。

学校生活の中で子どもたちは、他人の過ちが自分の利害に関わると簡単には許せないことがある。また、相手が過ちを犯してしまった理由を聞かず、関係をこじらせてしまう子どももいる。

本教材は、順庵が、弟子の一人である孝吉の過ちを一方向的に叱責するのではなく、孝吉の心の内を静かに聞き、遠く離れた病床の母への思いを知って、高麗にんじんを盗もうとした過ちを許すという話である。順庵の人としてのすばらしさは、孝吉の心の内を彼の立場に立って聞き、許しているところや、孝吉の悩みに気付いてやれなかったことを謝罪しているところから感じることができるだろう。

寛容な態度で弟子に接する順庵の姿から、謙虚で広い心をもって相手を認めることによさを感じ取れるようにすることで、謙虚であることや人に対して寛容であることによさに気付かせ、よりよい人間関係を築けるようにしたいと考える。

**2 着目した学習活動での工夫改善の手立て****問題意識をもつ**

- ・ 友達の過ちをなかなか許せない子どもが多い現状から、導入時に「広い心」について問うことで、今までの自分を振り返ったり、「広い心」をもつこととはどのようなことか、などを考えたりする機会を設け、本時で学ぶ道徳的価値である「広い心」について問題意識をもてるようにする。

**自分との関わり**

- ・ 投影的に問うことで、子どもの普段の行動と順庵の行った行動とを比較させたり、自分が順庵だとしたらどのような行動を取るかなどを考えさせたりすることで、自分との関わりで考えることができるようにする。

**自己の生き方**

- ・ 導入時に話題にした「広い心」について再び問うことで、問題意識をもち、自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりしたことを基にして、今までの自分を振り返り、自己の生き方について考えを深められるようにする。

### 3 展開案

○基本発問 ◎中心発問

展開案の完全版は、総合教育センターWebページからダウンロードできます。



	学習活動・発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点・評価の場面
導入	<p>1 「広い心」に対するイメージを共有する。</p> <p>○「広い心」をもった人とはどんな人でしょうか。</p> <p>【予想される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っていたら手伝ってくれる人。</li> <li>・譲ったり貸したりしてくれる人。</li> <li>・謝ったら許してくれる人。</li> </ul>	<p><b>問題意識をもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「広い心」について発問をすることにより、本時で学ぶ道徳的価値である「広い心」について問題意識をもてるようにする。</li> </ul>
展開	<p>2 資料を読んで、道徳的価値について考える。</p> <p>○自分が順庵だったら、高麗にんじんを盗んだ孝吉に対し、どういう対応をしたと思いますか。</p> <p>【予想される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盗みはやはりだめだから許さない。</li> <li>・黙って取り、その理由を言わないから怒る。</li> <li>・理由が分からないから話をまず聞く。</li> </ul> <p>◎順庵は孝吉が母のもとに行くことをどうして許したのでしょうか。</p> <p>【予想される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盗みはだめでも母を思う気持ちが伝わったから。</li> <li>・医者として人を助けたいと思ったから。</li> <li>・孝吉が悩んでいることに気付けなかったことに後ろめたさを感じたから。</li> </ul> <p>○それでは、最初の自分の考えと比べてみましょう。「広い心」をもった人とはどんな人だと思いますか。</p> <p>【予想される子どもの反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の過ちを許せる人。</li> <li>・相手の立場に立って考え、言葉をかけられる人。</li> </ul> <p>3 自分の心を見つめる。</p> <p>○「広い心」について考えたことを書きましょう。</p>	<p><b>自分との関わり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分が順庵だったらこの後どんな対応をするか」と投影的に問い、グループで考えを交流させることで、多様な考えや意見に接し、自分の考えを深められるようにする。</li> </ul> <p>●評価の場面</p> <p>孝吉の置かれている立場を理解し、順庵が許した理由について考えられるようにする。</p> <p>順庵がどうして許したかを考えることを通して、相手の意見を素直に聞き、相手の立場に立って考え、相手の過ちなどに対しても、広い心で受け止めることについて考えることができているか見取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三人組等で話し合い、他者の意見を聞くことで、順庵の気持ちを多面的・多角的に考えさせる。</li> </ul> <p><b>自己の生き方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・孝吉を許した順庵の「広い心」について考えることを通して、自己の生き方について考えを深められるようにする。</li> </ul>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の過ちに対して、置かれた状況や心情を汲み取り、許した教師の経験を話す。</li> </ul>

#### 4 授業の実際Ⅰ（導入の場面）

#### 問題意識をもつ

抽象的な表現である「広い心」について、日常生活での具体的な行為や経験と結び付けられるように発問を工夫したことで、教材の中に描かれている問題を捉えさせることができた。

- T : 「広い心」ってどんなことでしょうか。  
C1 : やさしい。  
C2 : 荷物を持ったときに伝ってくれる。  
C3 : 譲る、貸してくれる。  
T : 自分と同じ考えの意見に挙手してください。  
T : このお話の中での「広い心」ってどういうことかな。どういうことが「広い心」なのか、考えながらお話を聞いてください。

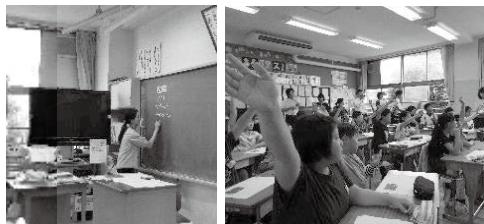
#### 工夫改善の実際

##### ■問題意識の共有

- ・本時のねらいである、「相互理解、寛容」を、子どもの実態に合わせ「広い心」という言葉に置き換えて、導入で発問した。発問に対しての子どもの反応は、「やさしい」「手伝ってくれる」など、子どもらしい意見が多く挙げられると想定した。これまでの自分の考えと教材の中に描かれていることを比較して考えさせることで、気付かなかった「広い心」について、新たな視点から気付けるようにした。

#### 子どもの姿

導入において「広い心」について問われた時、「広い心」についての自分の考えが明確になっていないことに気付いたのか、子どもたちは一瞬はとした表情になった。その後、子どもが持つイメージを発言させることを通して、子どもたちは「広い心とはどんなことか」という問題意識をもつことができた。



#### 5 授業の実際Ⅱ（展開の場面）

#### 自分との関わり

「自分が順庵だったら、どういう態度をとったか」と投影的に問うことで、教材の中の問題を自分事として考えさせ、順庵が取った行動と比較できるようにし、なぜ順庵がそのような行動をとることができたのかを考えることにつなげるようにした。

- T : 自分が順庵だったら、高麗にんじんを盗んだ孝吉に対してどうするか？(投影的な発問)  
C1 : 叱ってしまう。  
C2 : 盗んだこと、何も言わなかったことに怒る。  
C3 : 聞き出す。誤解があるかもしれない。  
C4 : 今までのことを考えると何かあったのではないかと思って理由を聞く。  
……他の児童にも発言してもらおう……  
T : いろいろな考えがありますが、怒る・聞き出す・どちらでもないに分かれるようですね。みんなは、怒る・聞き出す・どちらでもないのどの考えに近い挙手をしてください。

#### 工夫改善の実際

##### ■投影的な発問

- ・中心発問で考えを深められるようにするために、投影的な問いかけをした。問いかけたことにより、これまでの自分を振り返らせながら、順庵の行為について自分との関わりで考えさせたことで、多様な意見が出た。意見の中から、人間の弱さや迷いがあることなどに気付かせることができた。

順庵の行動について話し合った後、最初の自分が考えた「広い心」と教材を通して考えた「広い心」について比較させることで、自己の生き方について考えを深めさせることができた。

T : この話を通して「広い心」だなと感じるところはどこかな？

C 1 : 話を聞いてあげること。相手を許すこと。

T : 何を許したの？

C 2 : お母さんに届けるのを許した。

T : 高麗にんじんを盗んだことを許したの？

C 3 : 盗みはだめだけれども、困っていたら助ける。

T : じゃあ、広い心だと思うところは何かかな？

C 4 : すぐには怒らなかったこと。

T : なるほど。すぐには怒らなかったことが「広い心」だということね。

T : それでは、最初の自分の考えと比べてみましょう。「広い心」ってどんなことかな？  
(ねらいとする道徳的価値そのものを問う発問)

C 5 : やさしいだけではなく、だめなところは、だめと言ってくれること。

C 6 : 順庵のように話を聞いてあげること、許してあげられること。



## 工夫改善の実際



## ■発問の工夫

- ・子どもたちが教材から捉えた「広い心」についての発言が出尽くしたところで、ねらいとする道徳的価値そのものを問いかけた。そのことで、もう一度「広い心」について自分の考えに立ち返らせ、より深く考えさせることができた。

## ■構造的な板書

- ・順庵が許した理由と導入時に考えた「広い心」についての子どもの考えとを対比できるように板書計画を立てた。子どもの反応を予想することで、発言を分類し、整理しながら板書することができ、視覚的にも分かりやすくなった。

## 子どもの姿

相手の過ちなどに対して、自分も同じような過ちをすることもあることや、謙虚な心の大切さに気付いたりする姿が見られた。

## 7 学習指導改善の成果

導入時に「広い心」について日常生活の中の具体的な経験からイメージしたものと、教材中の人物の言動から考えた「広い心」を比較させることで、本時のねらいである「相互理解、寛容」について深く捉え、自己の生き方について考えを深めることができた。感想には、「自分にもつらい経験があるから、相手の思いや心を感じてあげたい」「相手のことを考えられるようになりたい」「理由によっては、だめなときはだめと教えたり、許してあげたりする」などがあり、「広い心」について深く考えた授業であったと考えられる。

#### ◇参考文献

- ・和井内良樹 「特別の教科 道徳」『授業が変わる！新学習指導要領ハンドブック中学校社会編』（平成29年）時事通信社
- ・和井内良樹 「『特別の教科 道徳』について考える」『下野教育 No. 759』（平成30年）栃木県連合教育会
- ・浅見哲也 「『考え、議論する道徳』が目指す道徳科の授業の姿」『初等教育資料 平成30年11月号』文部科学省
- ・浅見哲也 「要点整理 道徳科における児童・生徒の評価のあり方」『教職研修 平成30年5月号』文部科学省
- ・浅見哲也 「道徳科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」『初等教育資料 平成29年12月号』文部科学省
- ・浅見哲也 「道徳科における質の高い多様な指導方法」『初等教育資料 平成29年10月号』文部科学省
- ・浅見哲也 「学習指導要領改訂のポイント 道徳科」『初等教育資料 平成29年7月号』文部科学省
- ・赤堀博行 「道徳の評価で大切なこと」（平成30年）東洋館出版社
- ・赤堀博行 編著 「小学校 考え、議論する道徳科授業の新展開 中学年」（平成30年）東洋館出版社
- ・赤堀博行 「『特別の教科 道徳』で大切なこと」（平成29年）東洋館出版社
- ・赤堀博行 「道徳授業で大切なこと」（平成25年）東洋館出版社
- ・押谷由夫 「対称軸、時間軸、条件軸、本質軸の視点移動のスキルを磨く」『道徳教育 8月号』（平成30年）明治図書
- ・永田繁雄 編著 「平成29年版 小学校 新学習指導要領ポイント総整理 特別の教科 道徳」（平成29年）東洋館出版社
- ・柳沼良太、山田誠 編著 「小学校 問題解決的な学習で創る道徳授業パーフェクトガイド」（平成28年）明治図書
- ・初等中等教育局教育課程課 「『特別の教科 道徳』の学びと授業に対する教科」『中等教育資料 平成30年5月号』文部科学省
- ・文部科学省 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」
- ・文部科学省 道徳教育アーカイブ～「道徳科」の全面実施に向けて～  
<https://doutoku.mext.go.jp/>

#### ◇指導助言者及び調査研究協力校

##### <指導助言者>

宇都宮大学大学院 教育学研究科 准教授 和井内 良樹

##### <調査研究協力校>

- ・宇都宮市立築瀬小学校
- ・鹿沼市立西小学校
- ・佐野市立城北小学校

「考え、議論する道徳」の授業づくり（小学校段階）

平成 31（2019）年 3 月

編集発行 栃木県総合教育センター

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070

栃木県総合教育センター研究調査部

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303

URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>



本冊子は下の Web サイトでも御覧いただけます。

[http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h30\\_dotoku/](http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h30_dotoku/)